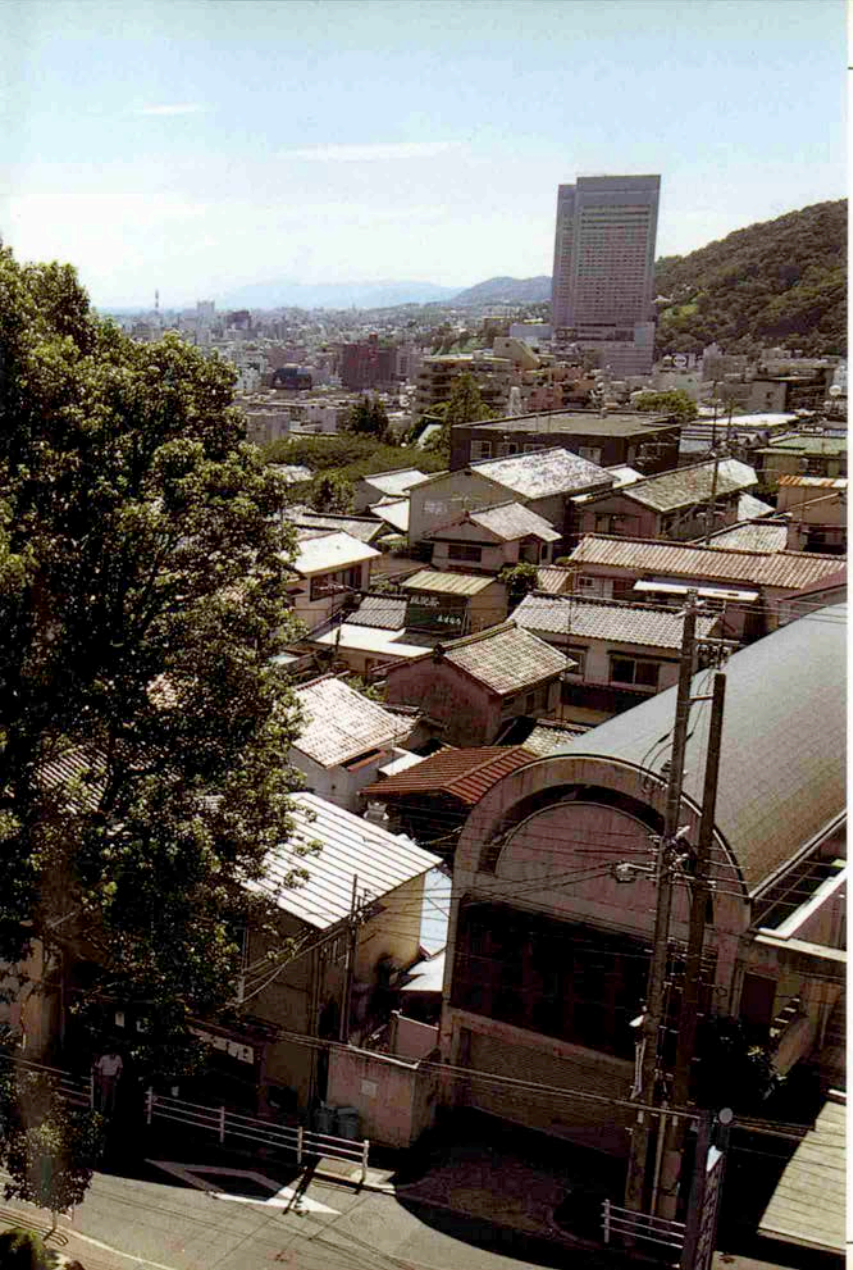


Photo Masao Kobayashi

神戸の名木

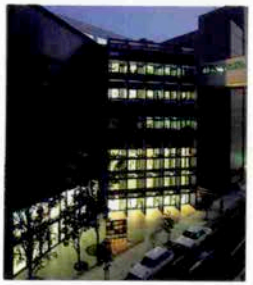
労災病院のくすのき

所在地――中央区籠池通四丁目神戸労災病院

□市バス　野崎通三丁目　北西一五〇ｍ

どっかと大地に根をおろしよく繁った立派なこの樟は都市の美観風致を維持するためなくてはならない「市民の木」です。

樹高(ｍ)19・0　幹回り(ｍ)4・3



黄昏どき、旧居留地にて。

古き良き時代のおもかげを残す街角で、
ふと思いがけない新しさに出会う。
どこかへ旅立つこともいいけれど、暑さがゆるむ夕暮れ、
旧居留地をぶらりと歩いてみませんか。
きっと、素敵な何かが見えてくるはずです。

ジーニアス・カフェ

DAIMARU KOBE
電話(078)331-8121〈水曜定休〉
〈15日㊌・16日㊍は連休させていただきます。〉

〔男〕ビブロス ジャケット(毛100%) …98,000円
シャツ(レーヨン55% 綿45%) ……39,000円
パンツ(綿100%) ……39,000円
〔女〕ビブロス ジャケット ……115,000円
(毛100%・部分使い牛革)
ブラウス(綿100%) ……46,000円
パンツ(レーヨン75% 綿25%・部分使い牛革) 46,000円

■ブロック30パートⅡ

〔男〕シマロン シャツ(綿100%) ……14,800円
ジーンズ(綿100%) ……12,800円
ベルト ……58,000円
〔女〕オトウール・デュ・モンド
ブラウス(綿100%) ……14,000円
ショートパンツ(綿100%) ……15,800円
カーディガン(綿100%) ……12,000円

■ジーニアス・ギャラリー2階

〔男〕ヘンリーコットンズ
ジャケット(毛100%) ……118,000円

■ジーニアス・ギャラリー2階

〔女〕エ・ヴー ブラウス(綿100%) ……17,000円
ジーンズ(綿100%) ……14,800円
スカーフ(絹100%) ……12,000円
※ジャケットは参考出品

■ジーニアス・ギャラリー1階

●表示価格の3%を消費税として別途頂だいいたします。

■ジーニアス・ギャラリー
ジーニアス・カフェ／メゾン・デュ・ショコラ／エ・ヴー／インタレスト
エメリック・メールソン／オトウール・デュ・モンド／ステファネル
シマロン／ナラ・カミーチェ／ジャッカロー／マルベリー／ベネトン
コール・ハーン／エーグル／ヘンリー・コットンズ

■BLOCK 30
エンポリオ・アルマーニ／エミスフェール／プラダ／サドラリー
ヴァレンティノ・ガラヴァーニ／フェンディ／エトロ／アルニス
ヴィンサント(レストラン&バー)／カフェ・ド・ラセール

■BLOCK 30 PARTⅡ
ビブロス／アイスバーグ／オリバー／ポリーニ
カフェ・レトロ(レストラン&バー)

■LIVE LAB WEST
アニエス・ベー／アフタヌーン・ティー／デュオ／アフタヌーン・ティールーム

■クリークス ■マリテ&フランソワ・ジルボー
■ポール・スチュアート ■ジャンポール・ゴルチェ
■ケンゾー・パリ神戸店

〈営業時間〉11:00AM～8:00PM水曜定休日※ジーニアス・カフェ、ヴィンサント、カフェ・ド・ラセール、カフェ・レトロ、ポール・スチュアートの営業時間は異なります。

あなたの、神戸です。

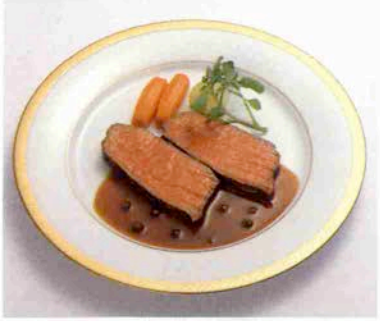
神戸百年

ザ・ステーキ

西洋文明で開花した神戸百年。多彩な料理文化が
世界に誇る神戸牛を育て、至芸のステーキを生み出しました。
その伝統に革新をプラス。真空加熱でほどよく
ミディアムに仕上げたステーキの真ずいを、
豊潤なシズルにのせてお届けいたします。

● USビーフフィレステーキ・1人前¥2,500

● USビーフもも肉ステーキ・1人前 ¥1,800



株式会社 ロックフィールド
TEL 078-452-0008

神戸の粋をお届けします。
エスプリ

● 神戸牛フィレステーキ・1人前¥8,000

神戸・グルメ都市宣言に寄せて
食の新しいライフスタイルを提案する

グルメ都市・神戸に当社が設立されて以来、単なるおいしさの追求のみでなく、食を通してより豊かなゆとりある生活の追求をテーマに、常に質の高い本物のデリカテッセンを提供し続けてきました。また神戸の歴史・文化に培われた食の素晴しさをエッセンスに、フレキシブルな発想と高度な技術力、そして若々しい情熱で、未来の食文化そして新しいライフスタイルの提案をし続けます。

代表取締役社長 **岩田 弘三**

香り豊かなＵＣＣ家庭用コーヒー

神戸発
“おいしいコーヒー”

国際港都神戸は、わが国最大の輸入港です。今や世界でも有数のコーヒー消費国になった日本。そのコーヒーの約45%が神戸港に輸入されます。この海外に開かれた風土は様々な味覚を培ってきました。その一つがコーヒーです。

一杯のコーヒーが与えてくれる豊かな心とやすらぎの一時、そして限りない創造。ＵＣＣは、ひと粒ひと粒に愛情をこめて“おいしいコーヒー”をお届けします。

代表取締役社長 上島　達司

ucc 上島珈琲株式会社

メリーヒル
ゲルラン
ボンフカヤ
シス
ルーブル・
ブライダルサロン
ダイアナ
ミッシェル・クラン
クロードレマ
タカノ
ココ山岡
三愛

キャンディッド・マス
メイソングレー
フォーセット
ベネトン
ラッキーズ
ハニーハウス
イーストボーイ
靴下屋
フェアリー
ベシェ
リップスター
ペイトンプレイス
ヴィフ
パルチザン
クレヨン
マリークヮント
アラブグレッツ
トゥエンティワン
ミシュー・エタム
Aug
リーフノット
アトモスフェール
ヴィッキー
アラン・マヌキャン
キャトルセゾン
ハウスオブローゼ
ワコール
トリンプ
ラバブル
ミセラン
シエル

神戸・三宮、さんプラザ2・3F
センタープラザ3F
営業時間 am 11:00—pm 8:00
PHONE — 078・332・1698

FASHION PARK

第3月曜、定休日

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です。

8月号目次●1990・No.352

表紙／小磯良平
セカンドカバー／西村功
11 神戸っ子90／中村賀津子・竹中勝則
14 ある集い／神戸ゾンタクラブ・神戸ネオトロピカル協会
17 コウベスナップ／ファッションモニュメント
TOYOTAモーターショー
18 美の小箱／文・伊藤誠 絵・松田一戯
20 神戸の銘木／カメラ・小林政夫
31 私の意見／小室豊允
33 随想三題／玉岡かおる・門田露・服部正
36 地域文化論／水谷頴介
38 連載エッセイ／田中千佳 カット・西村功
40 私と神戸／妹尾河童
42 トランペット片手にブラジル一人歩き／右近雅夫
44 珈琲飲みながら／宮尾登美子
46 第14回井植文化賞発表／国際交流部門・科学技術部門
報道出版部門・地域活動部門・社会福祉部門・文化芸術部門
54 〈特集〉国際交流Ⅰ ドイツ総領事エーバハード・バウマン
VSフランス総領事ルネ・ベレ
60 〈特集〉国際交流Ⅱ キャンペーン座談会
出席者／大野利彦・石黒マリーローズ・柏崎平景
クレー アントニ シラン・楊衛平
66 経済ポケットジャーナル
70 ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田淳
72 タカラズカ座談会／出席者・剣幸・天海祐希・岡田敬二
76 ファッションスポット
83 話題のひろば／久山康
84 神戸のお嬢さん／フローラ・イリアス・サリス・柿花有美子
104 もうさんのひょうごウォーク／西播磨天文台公園・高橋孟
113 コーヒーブレイク
114 動物園飼育日記／ゾウの動物園史（12）・亀井一成
117 神戸の集いから
128 神戸を福祉の街に／橋本明
130 有馬歳時記
136 百店会だより
138 モダンカルチャー
140 シネマ試写室／「敵、ある愛の物語」 淀川長治
142 ぴっといん
144 ポケットジャーナル
147 KFSニュース
148 るぽるたーじゅ神戸／"幻の炭鉱があった"・文 有井基
152 第14回神戸文学賞佳作作品・夏の遠景／文・伊々田桃 カット・羽多悦子
157 神戸っ子倶楽部会員情報
174 ちょっとたたずんで／街角の花7 当津隆
176 海船港／三菱重工業が生んだ2つの夢
クリスタルハーモニー号、フロンティアスピリッツ号
目次作品一松本薫
カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也・森田篤志

Cycle-90°R
六甲アイランドシティ
作・松本薫

第4回花かがみ公演

松竹名作劇場
秋の全国公演

出演
有馬稲子
波乃久里子
栗田陽子
桂木文
浜田寅彦
東恵美子
小坂一也
土屋嘉男
阿井美千子
栗田芳廣
キモサベポン太

向田邦子／作

「阿修羅の花いくさ」

ごとく」より

いくさに負けたら（戦争）
りっぱな「女」に
なれんぞ——
いくつになっても
男は子供——
女は〝おんな〟

脚本　ハマナカトオル
演出　酒井洋子
制作　岡本多鶴
製作　松竹株式会社

平成2年10月6日(土)

神戸文化ホール　大ホール

〈昼の部〉
午後1時

〈夜の部〉
6時開演

■入場料金
S席/4,120円　A席/3,090円　B席/2,060円
あじさいシート/1,030円（消費税を含んでいます。）

■入場券発売所：神戸文化ホール、さんちかプレイガイドほか市内主要プレイガイド
関西プレイガイド協会、チケットピア、チケットセブン、オレンジチケット
「あじさいシートは神戸文化ホールプレイガイドのみ」
■主催：神戸市・神戸市民文化振興財団神戸文化ホール
■お問い合せ：神戸文化ホール事業部Phone.351-3535
⊙未就学児童の入場は固くお断りいたします。

WELLCOME TO KICC

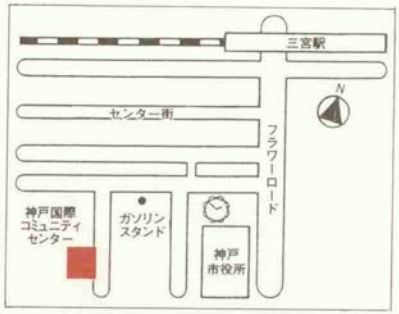
神戸国際コミュニティセンター

日本語や書道、華道など
日本文化を外国人に教える
ボランティア活動に
参加しませんか。

- お互いの文化を理解しあう異文化トーク、日本文化セミナーや語学サロンを行っています。
- 外国人への生活情報を提供します。
- 海外の新聞、雑誌が楽しめます。

【開館時間】
10:00A.M.～8:00P.M.（月～金）
10:00A.M.～5:00P.M.（土）

【お問い合わせ・窓口業務】
10:00A.M.～5:00P.M.（月～金）
10:00A.M.～12:00P.M.（土）
（日・祝日休館）



〒650
神戸市中央区江戸町92番地
江戸町SKビル5階（市役所西）
TEL（078）322-0330
FAX（078）322-1130

四季を装う 楽園に翔ぶ

上品なうす小豆色をベースにした紹訪問着。結城羊子様新調の、お気に入りの夏衣です。「徳田義三」作逸品だけに、みごとに雅やか！駒紹地は柔らかく涼しく、夏には最高の肌ざわりのお召し物です。また、身ごろ上前より、格調高い鳳凰の舞い姿も、一層の気品を漂わせます。組合せた紹つづれ夏帯も金箔、色箔取り合わせて、正倉院模様には珍しい織り柄です。それぞれに結城羊子様のお好みの良さが伺える夏の正装です。

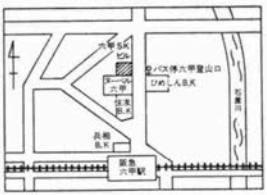
和装コーディネーター
荒川　豊子

モデル／結城羊子さん
〈大阪北新地〝ソルテレージュ〟オーナー〉

きもの＆おしゃれ小物

きもの＆おしゃれ小物
あらかわ
阪急六甲山麓
TEL 078(822)3337

神戸市灘区山田町3-2-26 六甲ＫＳビル
☎ (078) 822-3337㈹



塚本さんご一家

MAC
SINCE 1895 KOBE

HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22／SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651

SANNOMIYA MAC
THE BLAZER SHOP MAC
DOLCE MAC
FESTA MAC
BENETTON MAC
FUJIIDAIMARU MAC
SUNVIOLA MAC
PLENTY MAC

SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895
TOR-ROAD 078-391-0896
SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141
HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738
HIMEJI FESTA 3F 0792-22-1333
KYOTO FUJIIDAIMARU 2F 075-211-0857
TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830
SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088

□私の意見

新高齢化時代と生涯福祉社会の創造

小室　豊允
〈姫路独協大学教授・兵庫ボランティア協会会長〉

ウェルフェアという英語が福祉という日本語に訳されると、その元の意味が手品のように変えられてしまう。

もともとのウェルフェアという言葉は、「うまくやっていく」「良い生活をする」というひろい意味を持つのに、福祉になると、「可哀そうな、惨めな生活を救う」というような狭い意味に転化してしまう。

占領軍により示された憲法原案の中にウェルフェアという言葉が入っていた年の日本語辞典に福祉はなかったので、おそらく翻訳のとき誰かが造語したのであろうから、本来そうした狭い意味はなかったのであろう。

それは、これまでのわが国の福祉政策が貧困対策のワクを抜けられなかったことと、「福祉のお世話にだけはなりたくない」という前近代的な「イエ」意識が残存していたことと深いかかわりがあると思う。

いっぽう、ボランティアという言葉は、なまじ日本語に翻訳されなかったために、すんなり受け入れられ、女子学生にはボランティアサークルが人気がある。手話の講座などはいつも定員超過である。もっとも、ボランティアという言葉のもともとの意味は、志願兵ということで、「ノーブレス・オブリージ Noblessé Obligé, 高い身分のものは身分にふさわしい振舞をしなければならぬ」の義務を果たすために、貴族の婦人がバスケットに品物を詰めて、貧しい人たちに施しをしたことから始まっている。

それが、市民社会という対等な人間関係の社会ができて、市民相互の助け合いとして発展してきた。わが国は、いま、高齢化率が十一・九%で、「高齢化社会がやってきた、タイヘンだ!」と大騒ぎだが、二〇二五年には、八十五歳以上の人口が十一・五%の「新高齢化時代」がやってくる。福祉の対象は一部の人びとではなくなり、私たち全てが一度は福祉の対象者になると覚悟しておかなければならない。とすれば、一時的、かつ一部の人がボランティアというのではなく、全ての市民が人生のあらゆるステージでボランティアする「生涯福祉社会」の創造をはからなければならない。

Jucheim's

涼しさを誘うみずみずしい真夏のデザート

高級ワインで風味をひきたてたフルーツを、
ゼリーの中に閉じ込めました。
グレープ、パイナップル、オレンジ、キルシュ、
さわやかなフルーツの香りと
ひんやりした心地いい口あたりに
きっと御満足いただけることと思います。
合わせてプリンもお楽しみ下さい。

DESSERT FÜR SIE

SAMOTO CLINIC

佐本産科

ママといっしょに

赤ちゃん：池田　剛（つよし）くん（平成2年3月15日生）

ママ：まゆみさん　パパ：清さん須磨区在住

「我家待望の長男　剛です。元気ですくすく育っています。」

★佐本産科・婦人科★

佐本　学

神戸市兵庫区中道通4－1－15

☎575－1024（病室☎576－9639）

市バス上沢4停南スグ

随想三題

Bouquet・服部清美

ジャパニーズ・ネームを持つ英人

玉岡　かおる
〈作　家〉

子供の頃から、外国人の、それも横文字の名前をつけて〝ごっこ〟遊びをするのが好きだった。女の子なら、多分誰でも経験がある。

大学生になってもそれが尾を引き、アメリカでホームスティした時、ジョーと呼んでくれなどと自分から提言したのだが、誰もそう呼んでくれなかったのが今なお悔しい。

最近では、『夢食い魚のブルー・グッドバイ』（新潮社・刊）でデビューするにあたってペンネームをつけねばならなくなり、今だとばかり横文字の名を考えた。だが編集者からはまったく相手にされなかった体験がある。

そんな私に比べ、実に幸福な人に会った。英国人でありながら、外国・日本の文字で書く名前を持っている。交換した名刺には、〝前来・倭人〟（マイクル・ワット）と記されていて、思わず笑った。

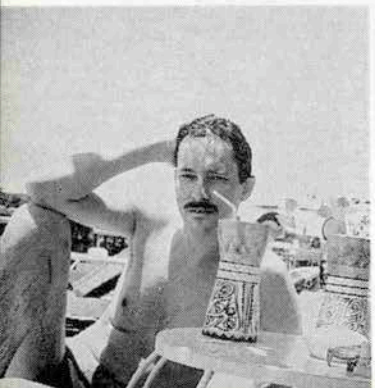
三宮のはんこ屋がその字のゴッドファーザーだという。客がたとえ外人であろうともたじろがず、しっかり商売にするあたりさすが神戸である。三浦安針と同時代人のヤン・ヨーステンも、当て字の日本名があったが、この字のほうが妙である。

彼が日本に来ると、私の従姉が活躍する。来日が重なるにつれ、ビジネス外にも親しくなった。なにしろ、〝ヘンな外人〟なのである。

東京よりは関西が好き。本国のブリティッシュ・ミュージアムで浮世絵に耽溺した結果、本場日本人に解説するほど詳しく、料亭では上手に箸を使って、刺身のツマまで平らげる。基本的には皿の上にあるものは全部食べられると知っていて、しその葉だと思って食べたのが実は苦いキュウリの葉。さすがに当惑の顔をしたというエピソードまである。

京都、大阪をすでに何度となく訪れた結果、この夏はついに神戸進出となったわけだが、食事なら懐石料理、少なくとも日本料理を、という彼の条件を満たすには、この街はどうも中途半端。各国料理ならお手のものなのに、とぼやきながら従姉が思いついたのは、我が家のクルーザーで瀬戸内の小島へ出てみることだった。神戸は海への玄関口でもある。

見渡せば花も紅葉もなかりけりそれを地でいくひなびた離島は、オーナーである夫の、海の足場である。マリンスポーツが楽しめる



ミスター・マイクル・ワット（前来・倭人）

から、夫には何も問題にならない。しかし島流しという言葉があるように、日本人でさえ都会を好む。案じていたがこのエトランゼは、少しも寂しがらず海の風情を満喫しているようだった。

砂がこぼれた畳の上にきちんと正座し、コップがわりのワンカップ清酒の空き瓶で水を飲み、出された魚の煮つけも、肝の部分まで残さず、文字どおり骨だけにしてしまった。

私たちより、よほど〝倭人〟＝日本人らしい。〝ヘンな外人〟の真意が理解できて、私も半ば呆れた。

従姉は言った。「きっと彼って、前世が日本人だったのよ」

そうかもしれない。こういう人にずんずん〝前〟へ〝来〟られると、現世の日本人としての顔が立たない。世界の国々に扉を開いたミナト・神戸に帰りついて思った。当面、少女時代から凝っていた横文字の名前ごっこはやめにしようと。どうやら夫の船で、倭人に徹する夏になりそうである。

夏に神戸で出会った人

門田　露
〈「我流」同人
NHK大阪文化センター講師〉

フラメンコの激しいリズムと思わせ振りな振りに汗を流しながらふと腕の向こうに、一人の恰幅のよいスペイン人を想い浮かべることがある。

「変わらないね。アンタ……」

柔和な茶色の眸が、四十路も終りに近くなって始めた手習いを笑ってウィンクをした。

「アンタの事なら何でも知ってる」

「だから、好き…」

臆面もなく私は甘えて見せる。

敬愛するカシミロ師との出会いが神戸というわけではなかったがメリケン波止場での小さな出来事が、今でも後先きのない凝縮された一瞬ででもあるかのように私の記憶の底に居すわり続けている。

夏の波止場の昼下りは、気怠いような汽笛の音と、どこか人の心を放埒にする潮風で、ひりひりするようであった。

私は、待ち合わせた人とベンチで話しながら、観光船からはき出される人波を、見るともなく眺めていた。

「あっ。カシミロ…」

懐しい人の顔を見て、思わず私は立ち上っていた。が、男は気づかずに私達の前を通り過ぎて行った。ある後ろめたさで、私の心は少し赤らんでいた。戸惑う私の前を知ってか知らずか、もう一度往復して彼は行ってしまった。ぽかんとしたままで、後姿を見送りながら、私はその人のくるぶしの肌の白さなんかを思い出していた。

数年前、日曜学校のリーダーをしていて生徒を連れてハイキングに行った。何かのはずみで山路で怪我をしたカシミロ師に、慌てて薬を差し出したものの、剝出された男の脛の生々しさに躊躇った。

「アンタが、塗ってよッ」

その甘えたような悪戯っぽい目の色には、心を許した者の強制力があった。その頃、私は「地球家族を作る」という彼の世界平和の計画に参加して燃えていた。

その後程なくカシミロ師の大学への転勤があり、同時に文学の道に没頭し始めた私は教会からも疎遠になっていった。

あの時メリケン波止場で、無言のまま別れたカシミロ師は、二ケ月後母国スペインで癌のため亡くなった。

フラメンコのリズムが、一段と激しさを増した。

第13回神戸文学賞受賞作「お夏」
日本風土記の会より6月に発行

「上手くなったら、きっとお墓参り行くから…」

私はポーズをとって腕の向こうのカシミロ師に囁いた。

波止場のベンチで、楽し気に話していた相手が男性であったため気を利かせて、黙って別れを告げていってくれたお礼をこめて。

踊りが終り、彼が消える前、持ち前の悪戯っぽさで囁いた。

「アンタ、いい女になったよ…」

近著「座礁船」について

服部　正

〈松蔭女子学院大学教授・神戸芸術文化会議議長〉

小さき座礁船の如　我横たわりて
時の潮にゆられていたり九カ月余
風雨に傷めども　漂流も沈没も
免れ得たるを幸とせむ

人生は一瞬、光は闇と言いますが、まさか瞬時に肢体不自由者になろうとは夢想もしませんでした「座礁船」は、意識こそあれ、切れ切れの想念の断片をとらえ、記録したものです。日頃、俳句や短歌を作っていたのかと聞かれますが、そうではなく、断片的な想念は短詩形の方が表現しやすかっただけのことです。作法もわきまえず、文法的にも自信がなく、読者のご叱正をお待ちするばかりです。

朝、毎、読、神戸、産経と各紙のご紹介があったからでしょうか。たくさんの方々からの反響に驚いています。生命ある内に本にしたいとは思っていましたが、陽の目を見ましたのは、全く島田誠海文堂書店社長の友情のおかげです。こんなありがたいご好意を受けるとは望外の果報と言うべきでしょう。病床で出版のことを告げられた時の嬉しさは言葉で表わせません。親友の歯科医佐本進先生の自死を始め、ショッキングな出来事の多かった病中において、薔薇色のショックでした。

――地球は青く闇無限、我はただ臨終告知を待ちいたり。銀河系よその方向を誤るなかれ。

どうして宇宙のことがよく出てくるのかと記者に尋ねられましたが、病んで初めて個体の卑少さを思い知らされ、同時代史の無限の宇宙的広がりを感得したからです。人間とか社会とか言いましても、要するに皮膚、粘膜を境界とする個体の群れにすぎません。

機関紙「こうべ芸文」に繰り返し提言したことですが、芸術文化振興財団を創設し、グローバルな規模で日本の芸術文化と世界のそれとの交流を図りたいものです。財団は芸術文化情報センターの機能を果たすべきだと思っています。

私は人生の小さな一隻の座礁船である
海底に沈む日は遠くない
船室のフロアには潮が満ちはじめ
すでに潮位はベッドすれすれのようだ
冷たい海水はやがて病室を天井まで埋めつくしてしまうであろう
そして当然それは私の耳や鼻にも入ってくる
自分だけが誰かに救助され
この座礁船のたった一人の生存者になることを願っていることは確かである
すでに懺悔の祈りは終った
壁の時計は動き続けている
救難の汽笛が響きわたる

6月30日自宅に「外泊」中執筆

闘病生活での想いをつづって

■「座礁船」は服部さんの詩など10編と清美夫人による闘病記からなる。新書変型版、27ページ、300円の冊子。海文堂書店とコーベブックスさんちか店で発売中。

地域文化論

〈その132〉

釧路の毛網毅曠の建築作品

水谷　頴介〈都市計画家・建築家〉

同窓の毛網毅曠君の故郷・釧路での建築作品を、やっと拝見してきた。彼の作品をめぐっての各種の評論に向って、私なりの意見も述べたいと思っていたのだが、まず実物を見ないことには、何も発言できない。神戸と釧路は、けっこう離れている。どこかへのついでに、というわけにはいかない。

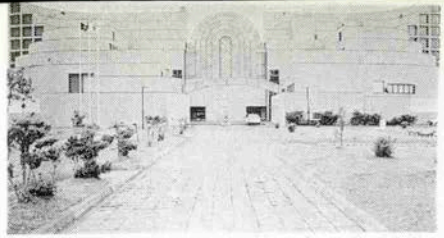
いま北海道は、小樽も函館も、そして冨良野も、それぞれの地域環境や地域資源をベースにしての観光ブームに当面している。

小樽は、長期にわたっての運河保存運動の行く末としての〝現在〟がある。全国町並ゼミの大会で拝聴するたびに、市民運動のリーダーだった峰山さんの報告には本当に胸をうたれた。先日の京都大会にも、元気な姿を見せて、〝現在〟を言葉少なくだが語ってくれた。函館の町は、函館山山麓の西部地区での旧函館区公会堂や最近修復が完了したハリストス正教会あたりから港を真下に見おろす坂の風景などがすばらしいが、最近、安易にかつ乱暴にマンションなどを建設してこの景観を破壊する動きがでている。港の金森倉庫――ヒストリープラザやベイ函館の赤レンガも観光名所であり、高田屋嘉兵衛資料館は、早朝や夕刻に町を訪れる人々のために朝7時30分から夜6時まで開いているユニークぶりである。

釧路にも、「啄木」があった。その来釧76日間の記録が研究されていた。また、町並み物としては、「釧路発　北の家図鑑　涌井義美」が手に入った。

ところで、毛網作品だが、釧路では、この現代建築が、観光ブームに参加しているのである。釧路市観光課のパンフレット「夢街くしろ」の表紙が「釧路フィシャーマンズワーフ――MOO」で、「市立博物館、湿原展望台、そしてマイシーマンズワーフと同様、東中学校も、地元出身の建築家・毛網毅曠氏の設計によるものです」と銘記されている。パンフレットといえば、札幌芸術の森のPR誌「GUSH」も、「宇宙の記憶をたどる」と題して特集していた。

まず湿原展望台と市立博物館を拝見した。この2作品は、昭和59年度の建築学会賞を受賞した。受賞の言葉で、彼は「それぞれがすでに独立した建物でありながらも、互いに干渉し、引き合い、対を成し釧路市のテーマである『近代と太古』いわば人工と自然の双つの焦点として都市の中に存在している」と記している。彼の説明による〝丹頂鶴が卵を抱きかかえるようなフォルムとか2重螺旋の天・人・地の三層空間、また湿原の中に生まれた球形植物そのままの姿――大地の遺伝子〟とかの言葉ほどには象徴性を感じなく、時間とコストで制約される現代建築の限界を感じてしまう。細かいことだが、寒さや冷えへの配慮はあるにせよ、玄関の戸扉や枠が集成材とはいえがっちりとした「木」で組みたてられている安心感、また、他の作品にも共通だが、打ち放しコンクリートをそのままでなく土色に着色しているなどに共感した。東中学校は、円孤をのせたとってつけたような外観が、建築物全体の落着いたグレー系の色合いと重なって、予想外に良い。キャッスルホテルの外観は、道東経済センタービルなどのただお金をかけただけやNHKの何らデザイン色のない単調な建物に比べて、魅力的である。もう少し規模が大きければ、旧釧路川にかかる幣舞橋あたりの風景を、フィシャーマンズワーフの巨大建築と重ねて、ドラマチックにしてくれただろう。このあたりの建て替えに、彼がまたまた参加してくれることを期待したい。フィシャーマンズワーフは、その中身があまりにも諸外国に流行かつメインテナントの全国版の類型で、彼の理念的空間造形が活用されるようなしくみになっていないのが残念だった。



釧路市立博物館

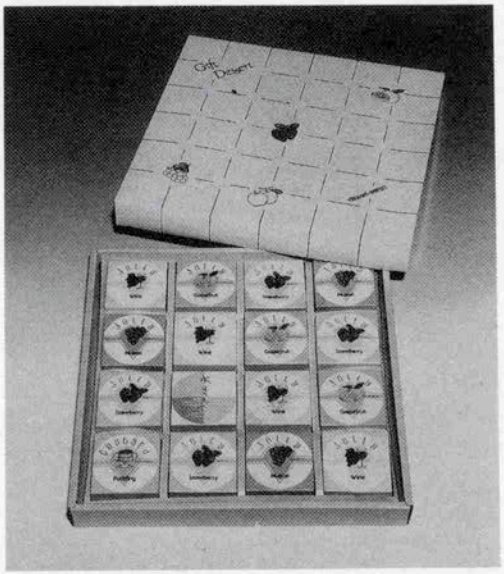
After Fashion

夏のワードローブは、脱いだら汗じみをチェック。基本的に麻と綿は水に強い素材ですが、ファッション性の高いものには、加工の仕方や型くずれ防止のために、ドライ表示のものも多いので気をつけます。
レーヨンは独特の光沢が魅力ですが、泣き所は水。水に濡れると光沢が消えてしまい、破れやすく、シワになったりします。水洗いは禁物、必ずアフターファッションは専門店におまかせ下さい。

AFTER FASHION
NISHIJIMA

本社／神戸市灘区記田町1 078-851-2440 ■ 大阪支社/06-853-1332
ロープ・ニシジマ山手/078-221-2440 ■ ロープ・ニシジマ宝塚/0797-72-0810
ロープ・ニシジマ三宮/078-332-2440 ■ リフォーム・フルフル/078-221-9110
ロープ・ニシジマつかしん/06-420-3754 ■ ロープ・ニシジマ芦屋/0797-38-3303

夏の昼下がりに
ギフトデザートをどうぞ



水ようかん、プリン、マスカット、
グレープフルーツ、ワインゼリー、
ストロベリーの6種類です。

8ケ入／1500円　16ケ入／3000円

北欧の銘菓
ユーハイム・コンフェクト

□エッセイ・11

名前

田中千佳〈作家〉

カット／西村　功

真夏の太陽が照りつける暑い日に私は生れた。太陽のように明るくあれと父は願って、私を陽子と名付けた。私の本名である。

その名の如く、私は明るく率直で情熱的だ。それを誇らしく思っている。

『あなたにぴったりのいい名前ね』と友達に言ってもらって、ずっと気に入っていたのだが……

私の夫は四人兄弟の長男。従って弟が三人いる。その三男と四男の妻が、何とヨーコなのだ。いくら長男の妻の私が魅力的だからといって、弟達が妻の名前をヨーコにしなくてもいいのにと思ってしまう。考え過ぎかしら。

現実には、一族に三人もヨーコさんがいると、ややこしくて仕方がない。お正月など全員が揃った時、『ヨーコさん』と誰かが呼ぶと、三人が『ハーイ』と返事する。

『ヨーコさんにお電話』といわれると、三人が電話の前でウロウロする。

なんとかしなければと、男どもが会議を開いた。

『一号さん、二号さん、三号さんというのはどうかな』

これには三男のヨーコさんが反対した。

『二号さんなんて、嫌』

確かに、それは具合が悪い。また、皆で考える。

『じゃあ、新しいヨーコさん、中古のヨーコさん、一番古いヨーコさんていうのはどうかな』

と四男が言った。その時、彼は新婚だったのだ。これには、三男のヨーコさんと長男のヨーコである私が猛烈反対した。

『中古なんて嫌』

車じゃないんだから、中古なんて失礼というものだ。

『一番古いとは何よ』

私も憤然とした。全く、人を沢あんの古漬けみ

たいに言って。妻なんて新しければいいというものでもない。新婚だからって、でれでれするな。

どんな案が出ても誰かが文句を言う。男どもは飲んでいたので、時間が経つにつれて、段々酔ってきた。もうどうでもよくなってきたのだ。誰かが、やけくそで

『一番きれいなヨーコさん』

と呼んでみた。

ところが、三人のヨーコさんが、一斉に

『ハーイ』

と返事したのだ。

これには驚いた。つつましいと思っていた新婚のヨーコさんが一番大きな声だった。

三人全部が自分が一番きれいと思っているとは……女とは自惚れの強いものなのですねえ。勿論、私も含めてだけれど。

結論が出ないままで、お開きとなってしまった。仕方がないから、住んでいる場所で呼ぶことになった。

『神戸のヨーコさん』とか『名古屋のヨーコさん』とか。しかし、東京に三男と四男が住むようになって、またややこしくなり、『A夫ヨーコさん』とか『B夫ヨーコさん』とか夫の名をつけて呼んでいる。

たった一人、『レイコさん』だった次男の妻は、ある日、脳内動脈瘤破裂で突然亡くなってしまった。

彼女は生前ふざけて、

『改名しましょうか。そうすれば、テレビに四人揃って出られるわ。お嫁さん全部がヨーコですって』

と言ったりしていた。

『この家の嫁は、やっぱりヨーコでないといけないのかしら』

私達ヨーコ三人組は顔を見合わせた。何だか薄気味悪かった。

しばらく何もなかったのだが、私の息子が結婚した。妻の名を『弘美』という。そして、次男の息子も結婚した。妻の名は同じく『弘美』である。本当に偶然なのだ。

しかし、三男にも四男にも息子がいる。何事にも足並みを揃える一族なので、妻の名前は全部『弘美』でなければと暗示をかけられているのではないだろうか。

いい人がみつかっても、名前が『ヒロミ』でないからとあきらめたりしないでほしい。

ここで、一番とくをしているのは、おばあちゃんである。何しろ、『ヨーコさん』と『ヒロミさん』とを交互に言っていれば、大抵のことは解決してしまう。

本音を言えば、個性豊かに一人一人違う名前の方がいい。先日も『ハヤショウコ』で生命保険会社から手紙がきて、百万円が満期になったからと書いてあった。

胸がドキドキした。自分で保険かけて忘れていたのか、それとも夫がこっそりかけていてくれたのかと期待したのだが違っていた。

海外勤務している四男のヨーコさんのものだった。ぬか喜びしてしまった。やっぱり名前は違う方がいい。

〈筆者紹介〉本名林陽子。朝鮮京城生まれ。戦後引き揚げて京都に住む。旧制同志社女専英文科卒。アメリカ系商社に就職。結婚、その後出産のため退社、以来専業主婦。「マイ・ブルー・ヘブン」で昭和六十年度中央公論女流文学新人賞を受賞。現在、東灘区在住。